

授業科目名	言語と社会		
科目番号	1E01011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 C 月 1,2
担当教員	佐々木 勲人		
授業概要	我々は言語によって世界を捉え、思いを表現しながら社会生活を営んでいる。言語と社会の関係に関わるさまざまな側面について、特に教育・文化・情報等の学際的な視点から考察する。		
備考	(人文開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	人間の様々な活動に深く関わる言語の諸相をとくに社会との関係において広く考察することで、幅広い視野と学際的なものの見方を涵養する。		
到達目標	1. 言語と社会の関係を学際的視点から捉え、言語に関わる研究領域の広がり認識する。 2. 言語使用と言語使用者の観点から、言語と人間生活に関わる諸問題について考察する。 3. 専門教育を補うような、幅広く奥深い関心を身につける。		
キーワード	文化・社会, 第二言語習得, 英語リーディング, ICT 技術, 比喩, 中国語, ドイツ語, 日常会話, 電子メディア, デジタル・ヒューマニティーズ		
各回授業計画	<p>第 1 回【1 月 6 日 1 限 廣瀬幸生 人文社会系】 [言語・認知・文化] ことばは、それを話す人のこころや、それが話されている文化・社会のありようを映し出す。言語から認知や文化の問題に迫る方法について、具体的に論じる。</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 6 日 2 限 久保田章 人文社会系】 [英語学習の勸所] 外国語としての英語の難しさについて、これまでの第二言語習得研究の成果を背景として、特に社会文化的な観点から検討する。</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 22 日 (授業振替日)1 限 池田晋 人文社会系】 [中国語の「繰り返し表現」] 中国語の「繰り返し表現」に関する興味深い現象を紹介し、その謎を解明するヒントが実生活における我々の「モノの見方」の中に隠されていることを論じる。</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 22 日 (授業振替日)2 限 木田剛 人文社会系】 [言語とグローバル経済] 日本に住むわれわれが将来のことを考えながら外国語を選択しているように、近年の世界の言語状況は社会的、経済的、政治的の要因など、様々な影響のもとで変容している。多言語社会の西アフリカを事例にとり、このような言語と社会の関係を考察する。</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 27 日 1 限 平井明代 人文社会系】 [英語の発表能力と評価] 英文を読むことはある程度できるが、英語で話す・書くのは苦手と感じる人が多いのではないだろうか。講義では英語の発表能力の習得理論とその能力の評価方法に関して考察する。</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 27 日 2 限 高木智世 人文社会系】 [日常会話の科学] 日常会話は、実は、「無秩序なおしゃべり」ではなく、極めて緻密に秩序立てられた社会的相互行為である。日常会話の分析を通して、言語使用能力を含めた人間の相互行為能力の奥深さに迫る。</p> <hr/> <p>第 7 回【2 月 3 日 1 限 田川拓海 人文社会系】 [電子メディアとことばと行為] 電子メディアはその発達・多様化によって、私たちの日常生活において存在感を増すとともに、ことばにも大きな影響を与えている。実際の言語表現の観察を通して、メディアとことばと行為の関係、特に書きことばと話しことばの接近について考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【2 月 3 日 2 限 和氣愛仁 人文社会系】 [デジタル・ヒューマニティーズと歴史・言語・文化] 人文科学と情報科学の学際的な研究領域として、デジタル・ヒューマニティーズ (人文情報学) と呼ばれる分野がある。歴史・言語・文化等と情報技術との関わりを中心に、デジタル・ヒューマニティーズのミッションや具体的な実践例、共同研究の重要性等について述べる。</p>		

	<p>第9回【2月10日1限 卯城祐司 人文社会系】 [英語リーディングの科学] 英文読解では「読めたつもり」でも、新たな問いを出されたらたん、理解できていないことに気づくことがある。この謎を体感しつつ「英語リーディングの科学」を検証する。</p> <hr/> <p>第10回【2月10日2限 小野雄一 人文社会系】 [言語とICT] 近年のコンピュータ技術、ICT技術の発展が、言語研究、言語教育分野に大きな影響を与えている。本講義では、情報学、教育工学分野の研究の成果に言及しつつ、言語研究にどのような形で影響を与えているかに関して、自動翻訳、音声認識などのアプリケーションを例に解説する。</p> <hr/> <p>第11回試験は実施せず、レポートを課す。</p>
履修条件	総合科目Ⅱの「言語の万華鏡Ⅰ,Ⅱ」を受講しておくこと、言語に関してより総合的な理解が得られる。
成績評価方法	課題(学期末に出題する)に対するレポートの成績により評価する。なお、授業回数の3分の2以上の出席をしていない履修者は成績評価の対象とならない。
授業外における学習方法	毎回の授業で紹介された資料や文献を読み解き、幅広い関心と問題解決の方法を身につける。
教材・参考文献	教科書は使用しない。毎回の授業でハンドアウトを配布し、参考文献を紹介する。
オフィスアワー・連絡先	予約により随時 人文社会学系棟 A718 sasaki.yoshihito.gm at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	何事も積極的な関心をもって取り組めば、何かを得られるはずです。総合科目もそのような姿勢で臨んでください。

授業科目名	現代社会の哲学的考察		
科目番号	1E01034	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 C 水 5,6
担当教員	土井 裕人		
授業概要	現代社会の諸問題について、哲学・思想の視点から掘り下げて考察する。		
備考	(人文開設)【受入上限数 80 名】 西暦奇数年度開講。		
授業形態	講義及び演習		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	現代社会の諸問題を前にして、真に多様性を尊重しながらも、一つの社会を築き上げることができる人材を育成する。		
到達目標	現代社会の諸問題に対して、哲学・思想を立脚点に考察する力をつける。特に、宗教学の視点を重視する。		
キーワード	現代, 社会, 多様性, 哲学, 思想, 宗教		
各回授業計画	<p>10 回のうち 3 回を非常勤講師が担当する予定であるが、担当回は前後する可能性がある。本授業計画は、受講者の状況により変更となる可能性がある。</p> <p>第 1 回【1 月 8 日】 [イントロダクション] 本科目の導入を行う。</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 8 日】 [現代社会での哲学・宗教をめぐる諸課題] 本科目で扱う現代の諸課題について、宗教としての観点から付置し見取り図を得る。</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 15 日】 [哲学・宗教とダイバーシティ] 宗教の観点から見たダイバーシティについて、概説する。</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 15 日】 [非常勤講師担当回 1] 非常勤講師により担当する予定。詳細は後日周知する。</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 29 日】 [哲学・宗教とセクシュアル・マイノリティ] LGBT 等の言葉が広まってきた今日の状況において、セクシュアル・マイノリティを哲学や宗教の見地から考える。</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 29 日】 [哲学・宗教とニューロダイバーシティ] 発達障害を脳や神経におけるダイバーシティと捉え、哲学や宗教という視点を踏まえて考察する。</p> <hr/> <p>第 7 回【2 月 5 日】 [非常勤講師担当回 2] 非常勤講師により担当する予定。詳細は後日周知する。</p> <hr/> <p>第 8 回【2 月 5 日】 [非常勤講師担当回 3] 非常勤講師により担当する予定。詳細は後日周知する。</p> <hr/> <p>第 9 回【2 月 12 日】 [ダイバーシティの哲学・宗教的基礎づけ] なぜ人間は個性を持ち多様であるのか。それを哲学や宗教から基礎づける。</p> <hr/> <p>第 10 回【2 月 12 日】 [まとめ] 受講者の感想やコメントを踏まえながら、この授業のまとめを行う。</p> <hr/> <p>第 11 回</p>		
履修条件	<p>特定の科目の履修や専門的知識を条件とはしません。</p> <p>他人に正解を与えてもらう受動的態度でなく、自分なりの問いを立てて能動的に考える姿勢を持つこと。</p> <p>一見奇異なテーマであっても「非常識」と切り捨てるのではなく、柔軟な姿勢で考察すること。</p> <p>総合科目 III として受講が必要な学生を優先しますが、上記条件に当てはまらない場合はこの限りではありません。</p>		
成績評価方法	<p>毎回の課題提出 (授業の出席を前提)...50%</p> <p>期末レポート...50%</p>		

授業外における 学習方法	[予習] 資料は manaba 等で配布するので、事前に読んで考えてくること。 [復習] 毎回の課題を manaba で提出すること。
教材・参考文献	必要に応じて、授業で紹介する。
オフィスア ワー・連絡先	上記以外にも希望に合わせて対応できるので、事前にアポイントメントを取ってもらえると助かります。
履修者へのメッ セージ	

授業科目名	比較文化の探求 名著のすすめ		
科目番号	1E02031	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	白戸 健一郎		
授業概要	人文・文化研究において、文献との出会いは重要である。感銘を受け、学問的に刺激された文献は、研究上のみならず、その人の生き方にも影響を与えることがある。本講義では、グローバル時代において比較文化を探求する教員が自ら選んだ、学生必読の文献を紹介しつつ、高度かつ専門的な視野から文化を読み解く方法を考えていく。		
備考	(比文開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	人文・文化研究において、文献との出会いは重要である。感銘を受け、学問的に刺激された文献は、研究上のみならず、その人の生き方にも影響を与えることがある。本講義では、グローバル時代において比較文化を探求する教員が自ら選んだ、学生必読の文献を紹介しつつ、高度かつ専門的な視野から文化を読み解く方法を考えていく。		
到達目標	1. 文献との出会いが研究者にとってどのような意義をもつものか知る。 2. これまで関心のなかった領域の文献を実際に手にとって読み、自分の専門領域とのつながりを見出す。 3. 継続的に文献探索を行い、自らの研究を導いていくような一冊と出会う。		
キーワード	文化, 文化研究, 名著		
各回授業計画	<p>第 1 回 4 月 15 日 (月) 第 1 回 白戸健一郎 (人文社会系):オリエンテーション、ベネディクト・アンダーソン 『想像の共同体』書籍工房早川、2007 年 「『想像の共同体』を通してメディアとナショナリズムについて考える。」</p> <hr/> <p>第 2 回 4 月 22 日 (月) 第 2 回 海後宗男 (人文社会系):竹下俊郎 『メディアの議題設定機能: マスコミ効果研究における理論と実証』学文社、2008 年 「議題設定機能からマスコミ効果研究を考える。」</p> <hr/> <p>第 3 回 5 月 9 日 (木):月曜授業 第 3 回 山口恵里子 (人文社会系):Tim Ingold, Lines: A Brief History (2007) 邦訳 『ラインズー線の文化史』工藤晋訳 (左右社、2014) 「『ライン』をめぐる生の営み、文化的・芸術的創造、人間・動物・植物の軌跡等を考察し、人間と世界との関係を問い直す。」</p> <hr/> <p>第 4 回 5 月 13 日 (月) 第 4 回 廣瀬浩司 (人文社会系):メルロ＝ポンティ 『眼と精神』みすず書房、1966 年 「メルロ＝ポンティ 『眼と精神』を読む。見るとは何だろう、描くとは何だろう。現代絵画から考える。」</p> <hr/> <p>第 5 回 5 月 20 日 (月) 第 5 回 畔上泰治 (人文社会系):ヴィクトール・E・フランクル 『夜と霧』(池田 香代子訳)、みすず書房、2002 年 「『夜と霧』を通して、強制収容所の中の極限の状況をどのように生き延びたのか、また生き延びた人々が戦後どのような状況に直面したかを考える。」</p> <hr/> <p>第 6 回 5 月 27 日 (月) 第 6 回 小川美登里 (人文社会系):『フロイト全集』岩波書店、2006-2012 年 「フロイトの思想を出発点として、芸術創造をひもとき、作品解釈の可能性について考える。」</p> <hr/> <p>第 7 回 6 月 3 日 (月) 第 7 回 佐藤吉幸 (人文社会系):ミシェル・フーコー 『監獄の誕生:監視と処罰』新潮社、1977 年 「フーコー 『監獄の誕生』を精読する。」</p> <hr/> <p>第 8 回 6 月 10 日 (月) 第 8 回 吉原ゆかり (人文社会系):イヴ・K・セジウィック 『男同士の絆』名古屋大学出版会、2001 年 「イヴ・K・セジウィック 『男同士の絆』を読み、ジェンダーとセクシュアリティについて考える。」</p> <hr/> <p>第 9 回 6 月 17 日 (月) 第 9 回 齋藤一 (人文社会系):エドワード・サイード 『オリエンタリズム』上下、平凡社、1993 年 「ポストコロナル批評の根本的発想について考える」</p>		

	<p>第10回 6月24日(月) 第10回 清水知子(人文社会系):ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社、2018年)  「ジュディス・バトラーの『ジェンダー・トラブル』を中心に現代のフェミニズム、クィア理論について考察する。」</p> <hr/> <p>第11回 7月1日(月) 期末試験</p>
履修条件	特になし。
成績評価方法	期末試験によって評価する。
授業外における学習方法	授業内で取り上げられたり推薦された本を読むこと。
教材・参考文献	*比較文化学類 HP「お薦め図書リスト」ここには比較文化学類の各コース向けの推薦図書とともに、全学学生向けの推薦図書も記載されています。
オフィスアワー・連絡先	授業時に知らせる。
履修者へのメッセージ	今まで手に取ったことのない本を読んで世界を広げて下さい。

授業科目名	変動する地域を捉える		
科目番号	1E02011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	塩谷 哲史		
授業概要	いつの時代・社会においても、人々の生活はそれぞれの地域のなかで、その地域をとりまく環境とのかかわりのなかで営まれてきた。しかし現代、政治や経済、あるいは文化の枠組みは大きく変動しつつある。そのような状況においては、地域というものも固定的に捉えるのではなく、問題に応じた時間的・空間的広がりを設定し、そのなかでそれぞれの営為を追いかけていく必要があるだろう。本講義では、主に日本とアジアを中心とする具体的な事例をもとにしつつ、変わりつつある地域を捉えるための地理学・民俗学・文化人類学・歴史学からの捉え方を紹介し、現代社会に対する学際的な理解を深める。		
備考	(比文開設) 西暦奇数年度開講。 【受講制限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	現代、政治や経済、あるいは文化の枠組みは大きく変動しつつある。そのような状況においては、地域というものも固定的に捉えるのではなく、問題に応じた時間的・空間的広がりを設定し、そのなかでそれぞれの営為を追いかけていく必要がある。本講義では、変わりつつある地域を捉えるための地理学・民俗学・歴史学・文化人類学からの捉え方を紹介し、現代社会に対する学際的な理解を深める。		
到達目標	1 人間の営みと地域、環境とのかかわりを理解するための地理学・民俗学・歴史学・文化人類学の方法を学び、自ら実践できる。 2 身近な現代社会、とくに環境をめぐる諸問題に対して自らの意見を積極的に発言できる。		
キーワード	地域、環境、社会、歴史、文化、生業		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 2 日 塩谷哲史 人文社会系】 [イントロダクション] 本講義全体について</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 10 日 塩谷哲史 人文社会系】 [グローバル化する社会と地域 1] 歴史学の視点から地域について概観する</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 16 日 塩谷哲史 人文社会系】 [グローバル化する社会と地域 2] 変動する中央アジアを事例として取り上げて論じる</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 23 日 木村周平 人文社会系】 [グローバル化する社会と地域 3] 文化人類学の視点から地域について概観する</p> <hr/> <p>第 5 回【10 月 30 日 木村周平 人文社会系】 [グローバル化する社会と地域 4] 移動する人や物から地域を見る</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 13 日 森本健弘 生命環境系】 [地域社会の変容 1] 地理学の視点から地域について概観する</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 20 日 森本健弘 生命環境系】 [地域社会の変容 2] 農村の変容、とくに農業の縮小と農村の商品化を取り上げて論じる</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 4 日 徳丸亞木 人文社会系】 [地域社会の変容 3] 民俗学の視点から地域について概観する</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 11 日 徳丸亞木 人文社会系】 [地域社会の変容 4] 信仰と伝承から見る地域の変容</p>		

	<p>第 10 回【12 月 18 日 全員】 [異なる方法をつなぐ] 講師全員で、受講者を交えてディスカッションする</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 25 日 塩谷哲史 人文社会系】 [期末試験]</p>
履修条件	とくになし。
成績評価方法	<p>学期末試験および出席票により、総合的に評価する。 学期末試験 (60%)... 課題に対する理解力と展開能力・独創性 出席票 (40%)... 各回の論点に対する理解力 ただし、出席回数が全体の 2/3 に満たない場合、欠格とする。</p>
授業外における学習方法	授業内容について復習するとともに、各講義担当者が紹介した参考文献を精読すること。
教材・参考文献	講義時に資料を配付する。参考文献は各講義担当者から適宜紹介する。
オフィスアワー・連絡先	<p>水曜 6 限 (事前連絡のこと) 塩谷 哲史 shioya.akifumi.kb@u.tsukuba.ac.jp 内線 5264</p>
履修者へのメッセージ	単に授業を聞き流すのではなく、受講者自らが問題意識を明確に持ち、独自に考察を進めてもらいたい。



授業科目名	日本とは何か III		
科目番号	1E03011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	沼田 善子		
授業概要	現代の私たちが自明のものとしている「日本語」「日本文化」の概念に、近年の研究動向を踏まえつつ再検討を加えることで、「日本とは何か」を考えていく。		
備考	(日日開設) 日本語・日本文化学類生の履修を認めない。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	「日本とは何か III」では、現代の私たちが自明のものとしている「日本語」「日本文化」の概念に、近年の研究動向を踏まえつつ再検討を加えることで、「日本とは何か」を考えていく。		
到達目標	「日本語」や「日本文化」についての近年の研究動向を理解し、自分自身の考えを深めることを目標とする。		
キーワード	文法性、コーパス、言葉のゆれ、方言と共通語、言語類型論		
各回授業計画	<p>1 回目から 5 回目までを杉本武 (人文社会系)、6 回目から 10 回目までを金仁和 (人文社会系) が担当する。</p> <p>第 1 回【4 月 15 日 杉本 武 人文社会系】 [日本語の再検討 1 文の自然らしさとは] 文などが自然である、文法的であるとは、どのようなことなのか、言語の内省の問題について考える。</p> <hr/> <p>第 2 回【4 月 22 日 杉本 武 人文社会系】 [日本語の再検討 2 言語の規則と使用] コーパスの用例などをもとに、言語の規則と実際の使用とのずれ、その関係について考える。</p> <hr/> <p>第 3 回【5 月 9 日 杉本 武 人文社会系】 [日本語の再検討 3 言葉のゆれ] 「ら抜き言葉」などの、いわゆる言葉のゆれと言語の変化、規範性との関係について考える。</p> <hr/> <p>第 4 回【5 月 13 日 杉本 武 人文社会系】 [日本語の再検討 4 方言と共通語] 日本語の中の方言と共通語の違いを通して、日本語の中の差異について考える。</p> <hr/> <p>第 5 回【5 月 20 日 杉本 武 人文社会系】 [日本語の再検討 5 類型論的に見た日本語] 世界の言語の中での日本語の位置づけを形態、語順、格などの点から見ることによって、日本語と世界の言語の共通性について考える。</p> <hr/> <p>第 6 回【5 月 27 日 金 仁和 人文社会系】 [言語での視点] 言語表現から見られる視点の両面性について考える。</p> <hr/> <p>第 7 回【6 月 3 日 金 仁和 人文社会系】 [積極的/消極的] 慣用表現を中心として日本語の消極性について考える。</p> <hr/> <p>第 8 回【6 月 10 日 金 仁和 人文社会系】 [絶対的/相対的] 文法項目から見られる日本語の相対性について考える。</p> <hr/> <p>第 9 回【6 月 17 日 金 仁和 人文社会系】 [開放的/閉鎖的] 会話の進行から見られる日本語の閉鎖性について考える。</p> <hr/> <p>第 10 回【6 月 24 日 金 仁和 人文社会系】 [方向] 言語表現には、上 下・中 外・全体 部分・原因 結果・動き 停止など、多様な方向性がある。日本語の方向性について考える。</p>		

	第 11 回【7 月 1 日 杉本 武・金 仁和 人文社会系】 期末試験
履修条件	日本語・日本文化学類生の履修を認めない。
成績評価方法	期末試験の結果から判定する。
授業外における 学習方法	授業で紹介した文献を積極的に読むこと。
教材・参考文献	授業時に適宜紹介する。
オフィスア ワー・連絡先	世話人 沼田善子 numata.yoshiko.gb@u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッ セージ	ステレオタイプな思考に陥らないで、独自の見解を展開するように努めてほしい。

授業科目名	国際社会における戦争と平和		
科目番号	1E04011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 1
担当教員	南山 淳		
授業概要	本講義では、国際社会における戦争と平和の構造的特質について、国際紛争が発生するメカニズム、グローバル化する安全保障、平和構築の条件等、具体的な諸問題を考察することで、現代国際関係に対する理解を深める。		
備考	(社会開設) 西暦奇数年度開講。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	戦争と平和に関する具体的な課題の多角的検討を通じて、現代国際関係についての理解を深める。		
到達目標	1 国際問題に対する自分なりの問題意識と思考方法を獲得する。 2 国際問題を分析する際に、どのような点に着目すべきかを学習する。 3 国際問題を考えるための基本的知識を習得する。		
キーワード	日米安保体制, 米軍基地, 外交, イデオロギー, アメリカ, 軍事技術, 対テロ戦争		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 7 日 南山 淳 人文社会系】 [日米安保体制の中の沖縄 (1):歴史構造としての日米安保体制] 現代日本の政治社会構造を規定し続ける日米安保体制の歴史的起源と、その変容過程について検討する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 18 日 振替日 南山 淳 人文社会系】 [日米安保体制の中の沖縄 (2):在沖米軍基地をめぐるデモクラシーと安全保障] 在日米軍基地の構造的負担が集中する沖縄において頻発しているデモクラシーと安全保障の衝突について検討する。</p> <hr/> <p>第 3 回 [10 月 21 日 松岡 完 人文社会系] [現代戦争の始まり (1):大量殺戮戦争] 20 世紀に入ると戦争はその姿を大きく変貌させた。現代戦争を構成する 3 つの要素について、第 1 次・第 2 次世界大戦を中心に検討する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 28 日 松岡 完 人文社会系】 [現代戦争の始まり (2):全体戦争 (総力戦)] 同上</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 6 日 振替日 松岡 完 人文社会系】 [現代戦争の始まり (3):イデオロギー戦争] 同上</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 18 日 外部講師】 [安全保障・経済・科学技術 (1):何が問題なのか] 戦争と平和の問題を考える際に、安全保障・経済・科学技術の問題を多層的に考える必要性が高まっている。本講義ではこの問題を多面的に考えるためのツールを学ぶ。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 25 日 外部講師】 [安全保障・経済・科学技術 (2):アメリカ] 近年におけるアメリカの安全保障政策を題材に、安全保障・経済・科学技術の交錯がもたらす諸問題を議論していく。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 2 日 外部講師】 [安全保障・経済・科学技術 (3):日本] 近年における日本の安全保障政策を題材に、安全保障・経済・科学技術の交錯がもたらす諸問題を議論していく。</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 9 日 近藤康史 人文社会系】 [正しい戦争はありうるのか (1)] 対テロ戦争や人道的介入などの事例をもとに、「正しい戦争はありうるのか」という問題について、思想的な観点も含めて考える。</p>		

	<p>第10回【12月16日 近藤康史 人文社会系】 [正しい戦争はありうるのか(2)] 同上</p> <hr/> <p>第11回【12月23日】 学期末試験</p>
履修条件	本講義はすべて日本語で行われるので講義理解に必要な最低限の日本語運用能力を要する者。
成績評価方法	学期末試験によって評価する。
授業外における学習方法	複数の新聞購読を中心に日常的に多様なニュースメディアに触れることで、政治経済や国際問題に関するメディアリテラシーを深めていくこと。
教材・参考文献	講義時に担当者から指示する。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	日常的に政治や国際関係に対する関心をもって、自分なりの問題意識を向上させていってください。

授業科目名	学校を考える III		
科目番号	1E06011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	佐藤 博志, 川口 純, 江角 周子		
授業概要	これからの学校と教師の在り方について論究する。はじめに、学校をめぐる社会変動と教師の専門性論について日本を中心に解説する。次に、開発途上国の学校と教師について講義する。最後に、教育相談、カウンセリングに焦点を当てて、教師の実践技法について、理論的裏付けもふまえながら、解説・実践する。		
備考	(教育開設) 人間学群学生の受講は認めない。講義の一部にディスカッションを取り入れるため、受入れ上限数を 80 名とする。 平成 28 年度と平成 27 年度に科目番号 1B06031「学校を考える III」(総合科目 II)の単位を修得した学生は、この授業の履修を認めない。		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分	総合科目 III、科目群 E、3・4 年次対象		
教育目的	この授業の目的は、これからの学校と教師の在り方について考察できるようになることである。そのために、この授業では、日本の学校の教師の専門性、開発途上国の学校と教師、教育相談とカウンセリングの視点からアプローチし、多面的・総合的に学習する。		
到達目標	受講生がこれまでの大学生活で培ってきた知識、能力、経験を活用しつつ、自らが社会人、教師、保護者になった時の立場等も仮定することによって、学校教育と教師の問題を解き明かし、高度な教養の習得を目指す。		
キーワード	学校と教師、クリエイティブな教師、教師の専門性、日本とオーストラリアの比較、開発途上国の学校教育相談、カウンセリング、児童生徒と教師、傾聴、ピアサポート、ケア、子どもの居場所、教育経営学、比較教育学、教育臨床学		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 7 日 (佐藤博志、川口純、江角周子 人間系)】 [オリエンテーション] 本授業のねらいと進め方について説明し、授業への導入を図る。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 18 日 (佐藤博志 人間系)】 [現代社会の変化と教師の専門性] 現代社会の変化について講義した上で、教師の専門性の在り方について考察する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 21 日 (佐藤博志 人間系)】 [現代のカリキュラムと教師] 学習指導要領と教師の在り方について検討する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 28 日 (佐藤博志 人間系)】 [日本とオーストラリアの学校と教師 比較分析 ] オーストラリアと日本の比較を通して、学校と教師の在り方を考察する。</p> <hr/> <p>第 5 回【11 月 6 日 (川口純 人間系)】 [開発途上国の学校と教師:東南アジア編] 東南アジア (ベトナム、カンボジア、タイ) の教育実態について写真や資料を基に把握し、そこで教える教師の在り方について考察する。</p> <hr/> <p>第 6 回【11 月 18 日 (川口純 人間系)】 [開発途上国の学校と教師:アフリカ編] アフリカ (ケニア、マラウイ) の教育実態について写真や資料を基に把握し、そこで教える教師の在り方について考察する。</p> <hr/> <p>第 7 回【11 月 25 日 (川口純 人間系)】 [開発途上国の学校と教師:ー比較分析ー] 途上国と日本の比較を通して、学校と教師の在り方を考察する。</p> <hr/> <p>第 8 回【12 月 2 日 (江角周子 人間系)】 [現代の学校不応問題と教師] 児童生徒の学校不応の問題について講義した上で、学校と教師の在り方について考察する。</p> <hr/> <p>第 9 回【12 月 9 日 (江角周子 人間系)】 [教師とカウンセリング] 教師の使えるカウンセリング技法についての講義・実習を通して、教師の在り方について考察する。</p>		

	<p>第 10 回【12 月 16 日 (江角周子 人間系)】 [教師と予防教育] 学校不適應に対する予防教育についての講義・実習を通して、学校と教師の在り方を考察する。</p> <hr/> <p>第 11 回【12 月 23 日 (佐藤博志、川口純、江角周子 人間系)】 [期末試験] 講義内容は継続的に進行するので、安易な欠席は認められない。</p>
履修条件	人間学群学生の受講は認めない。講義の一部にディスカッションを取り入れるため、受入れ上限数を 80 名とする。平成 28 年度と平成 27 年度に科目番号 1B06031「学校を考える III」(総合科目 II)の単位を修得した学生は、この授業の履修を認めない。教育と社会に関する問題に関心があること、及び学習意欲があることを履修の条件にする。
成績評価方法	期末試験を中心に評価する。授業における基本的な態度と応答などについても考慮する。
授業外における学習方法	新聞における教育関連記事はできるだけ読むこと。関連する事項を図書、論文等を通して積極的に学習すること。
教材・参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 佐藤博志,『クリエイティブな教師になろう』学文社,2018 年</li> <li>2. 興津妙子・川口純編著,『途上国の教員政策と国際協力』明石出版、2018 年</li> </ol>
オフィスアワー・連絡先	<p>研究室を訪問する場合、メールで事前に連絡をとってください。 簡単な事柄であれば、授業終了後に聞いてください。 メールで済む質問であれば、メールでの対応も可能です。 h-sato at human.tsukuba.ac.jp <a href="http://www.human.tsukuba.ac.jp/education/institute/staff/name/%E4%BD%90%E8%97%A4%E5%8D%9A%E5%BF%97">http://www.human.tsukuba.ac.jp/education/institute/staff/name/%E4%BD%90%E8%97%A4%E5%8D%9A%E5%BF%97</a></p>
履修者へのメッセージ	高校時代までの経験を振り返るとともに、1,2 年次に学習した知識や思考を基礎に、教育をめぐる諸問題について考察してください。

授業科目名	経済学入門 III		
科目番号	1E17011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 C 火 3,4
担当教員	佐野 幸恵, 秋山 英三		
授業概要	ミクロとマクロをつないできた統計物理学を背景に、近年発展してきた「社会経済物理」について、その歴史的な流れから最先端の話題まで紹介します。		
備考	(社工開設)【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	物理学や経済学を学んだことがない学類 3・4 年生が、それらの基本的な概念を身につけ、社会経済物理の考え方で、社会経済を新たな視点で見られるようになること。		
到達目標	社会経済物理の基本概念を理解し、関連するキーワード(べき分布、フラクタル、エントロピーなど)を列記できる。		
キーワード	社会経済物理, ネットワーク科学, ソーシャルメディア		
各回授業計画	<p>第 1 回【1 月 7 日 佐野幸恵 システム情報系】 [社会経済物理とは何か?1] 「社会経済物理」について概観する。</p> <hr/> <p>第 2 回【1 月 7 日 佐野幸恵 システム情報系】 [社会経済物理とは何か?2] ビッグデータによって、社会経済物理がどう発展してきたかを説明する。</p> <hr/> <p>第 3 回【1 月 14 日 佐野幸恵 システム情報系】 [確率の基礎 1] サイコロを使いながら、実際に手を動かして確率の基礎を復習する。</p> <hr/> <p>第 4 回【1 月 14 日 佐野幸恵 システム情報系】 [確率の基礎 2] 正規分布や指数分布が現れるメカニズムについて説明する。</p> <hr/> <p>第 5 回【1 月 21 日 佐野幸恵 システム情報系】 [集合知とソーシャルメディア 1] 集合知とは何か、実際に手を動かしながら経験する。</p> <hr/> <p>第 6 回【1 月 21 日 佐野幸恵 システム情報系】 [集合知とソーシャルメディア 2] 集合知とソーシャルメディアについて実例を挙げながら説明する。</p> <hr/> <p>第 7 回【1 月 28 日 佐野幸恵 システム情報系】 [ネットワーク科学の基礎 1] 企業間取引から生物の代謝まで、複雑ネットワークの基礎について説明する。</p> <hr/> <p>第 8 回【1 月 28 日 佐野幸恵 システム情報系】 [ここまでのまとめ] これまでの内容について、理解度を測る。(小テスト)</p> <hr/> <p>第 9 回【2 月 4 日 佐野幸恵 システム情報系】 [まとめ] 外部講師を招き、授業内容のまとめを行う。</p> <hr/> <p>第 10 回【2 月 4 日 佐野幸恵 システム情報系】 [まとめ] 外部講師を招き、授業内容のまとめを行う。</p>		
履修条件	3・4 年生		
成績評価方法	A:レポート(40%)・・・理解、応用力、創造性 B:授業内提出物(60%)・・・トピックへの興味と関心、考察力		
授業外における学習方法	授業時間内で、適宜文献を紹介する。		
教材・参考文献	教科書は特に指定しない。		
オフィスアワー・連絡先	オフィスアワーは授業第 1 回目に連絡する。 佐野 幸恵 sano at sk.tsukuba.ac.jp infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~sano/		

履修者へのメッセージ

社会経済と物理という、一見、関連性のない2つの分野を自在に行き来しながら、世の中を新たな視点で見てみよう。ぜひ、幅広い興味を持って取り組んでください。



授業科目名	社会のなかの建築デザイン		
科目番号	1E25011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 A 火 1,2
担当教員	貝島 桃代, 加藤 研		
授業概要	デザインに何が出来るのか? 社会との関わりについて、建築デザインの観点から、デザインの可能性を探る。		
備考	(芸術開設) 平成 28 年度までの「社会のなかのデザイン」を修得済みの学生は履修できません【受入上限数 78 名】		
授業形態	講義		
科目群	E		
水準・区分			
教育目的	建築デザインと社会の関わりを理解する。		
到達目標	1. 地域社会や生活環境における建築デザインの役割を知ること 2. 建築デザインの果たすべき役割と責任について理解すること 3. 建築デザインへの興味・関心を発展させること		
キーワード	建築デザイン, 社会, 地域, 環境, 公共空間, 震災復興		
各回授業計画	<p>第 1 回【貝島 桃代・加藤 研 芸術系】 [オリエンテーション・地域における建築デザイン 1] 建築デザインと社会について地域の事例をもとに概説する</p> <hr/> <p>第 2 回【貝島 桃代・加藤 研 芸術系】 [地域における建築デザイン 2] 建築デザインと社会について地域の事例をもとに概説する</p> <hr/> <p>第 3 回【加藤 研 芸術系】 [建築と環境 1] 建築プロジェクトの設計プロセスを解説し、建築と環境の関係をめぐる建築家の思考を講述する</p> <hr/> <p>第 4 回【加藤 研 芸術系】 [建築と環境 2] 建築プロジェクトの設計プロセスを解説し、建築と環境の関係をめぐる建築家の思考を講述する</p> <hr/> <p>第 5 回【加藤 研 芸術系】 [建築の公共空間 1] 建築がつくる公共空間について、主に近年の事例を参照して講述する</p> <hr/> <p>第 6 回【加藤 研 芸術系】 [建築の公共空間 2] 建築がつくる公共空間について、主に近年の事例を参照して講述する</p> <hr/> <p>第 7 回【貝島 桃代・加藤 研 芸術系】 [建築デザインと社会 1] 建築デザインと社会について事例をもとに概説する</p> <hr/> <p>第 8 回【貝島 桃代・加藤 研 芸術系】 [建築デザインと社会 2] 建築デザインと社会について事例をもとに概説する</p> <hr/> <p>第 9 回【貝島 桃代 芸術系】 [震災復興における建築デザイン 1] 東日本大震災で大きな被害を受けた漁村集落の再生支援プロジェクトについて解説する</p> <hr/> <p>第 10 回【貝島 桃代 芸術系】 [震災復興における建築デザイン 2] 東日本大震災で大きな被害を受けた漁村集落の再生支援プロジェクトについて解説する</p>		
履修条件	特になし		
成績評価方法	試験またはレポート課題で評価する。		
授業外における学習方法	授業で取り上げたデザインの対象や問題について、身近な生活環境において確認するなどして、問題意識を深めること。		
教材・参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。		
オフィスアワー・連絡先	貝島 桃代 mkaijima at rg7.so-net.ne.jp <a href="http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~mkaijima/">http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~mkaijima/</a> 加藤 研 o-kato at geijutsu.tsukuba.ac.jp		

履修者へのメッセージ

遅刻 2 回は欠席 1 回として扱う。授業に集中して、積極的に質問してください。

授業科目名	スポーツ芸術表現学		
科目番号	1E25021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 火 6
担当教員	太田 圭, 嵯峨 寿, 田中 佐代子, 大原 央聡, 田島 直樹, 山本 美希		
授業概要	「スポーツ芸術」とは「スポーツをテーマとした芸術作品」のことで、本授業では、これらを「創る」「観る」「支える」という3つの立場から捉える。オリンピックの芸術競技をはじめとした美術史におけるスポーツ芸術、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」、現代におけるスポーツとデザインの関わり等を、アーティスト・デザイナー・漫画家等の多様な視点から学び、新しいスポーツ芸術の表現について考える。		
備考	(芸術開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	E:精神、文化、社会、歴史に関わる総合科目		
水準・区分			
教育目的	「スポーツ芸術」とは「スポーツをテーマとした芸術作品」のことで、その表現について学ぶ「スポーツ芸術表現学」は、日本で初めて使われる名称です。本科目では「芸術作品を創る立場」を主としつつ、「観る目」「支える方法」を総合的に学び、新しいスポーツ芸術の表現について考えます。希望者は「リボン・アートボール」の制作によって、2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムへの参加が可能です。また、あなたはかつてオリンピックの7大会に「芸術競技」があり、そのうち日本は2大会に参加し、1936年ベルリン大会では2人の日本画家の銅メダリストがいたことを知っていますか?スポーツのみで行われていると思われるオリンピックのもう一つの顔、「芸術競技」の史実と「文化プログラム」の現状について解説します。		
到達目標	まず、オリンピックがスポーツのみならず「芸術文化」と一体となって成立していることを知り、オリンピックにおける「芸術競技」の史実について理解し、他者に説明することができるようになる。スポーツをモチーフとした芸術作品やデザイン、漫画、俳句などの制作の背景を知り、それらについて評価できるようになる。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて実施される「文化プログラム」について興味関心を持ち、積極的に参加するようになる。		
キーワード	スポーツ芸術, 芸術競技, 文化プログラム, 2020年東京大会公式エンブレム, ポスター, スポーツ漫画, スポーツ写真, リボン・アートボール		
各回授業計画	<p>第1回【4月16日 太田 圭 芸術系】 〔ファインアート vs ファインプレーのキックオフ〕 本科目の「スポーツ芸術表現学」は、国内では初めて用いる名称です。ガイダンスとして、「表現と再現」をキーワードとして自作例を示しながら概説します。また、「スポーツ芸術表現」を「学問」として、その創生を目指すに至った経緯とコンセプトを解説します。また2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとして実施される「リボン・アートボール」のプロジェクトについて紹介します。</p> <p>第2回【4月23日 野老朝雄 (アーティスト)】 〔オリンピックエンブレムの「個と群と律」〕 東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレムを制作したアーティストが、「個と群と律」をテーマとした自身の制作ポリシーや、現在に至るまでの創作への取り組みと、そこに込めた想いについて語ります。</p> <p>第3回【5月7日 田中佐代子 芸術系】 〔デザインとスポーツのクリエイティブ・マッチ〕 スポーツのユニフォームやシューズ、ボール、観戦チケットやポスター、スタジアムのどれを取っても「デザイン」されていないものはありません。ではデザイナーたちは何をどのように考えてデザインするのでしょうか。その思考プロセスと制作の背景をビジュアルデザイナーが解説します。受講後、私たちを取り巻く様々な「デザイン」の見方は間違いなく変わります。</p> <p>第4回【5月14日 小城崇史 (スポーツフォトグラファー)】 〔私はなぜスポーツを撮るのか〕 「人間が人間の営みを撮ることに意味がある」と考えるスポーツ写真家のこれまでのさまざまな実績を紹介します。フリーランス写真家として新聞や雑誌に掲載されたことは言うまでもなく、記念すべき瞬間にも多数立ち会ってきたと言います。サッカー、大リーグ野球、テニス、カーレースなどの決定的瞬間の世界を覗いてみましょう。</p> <p>第5回【5月21日 井上裕太 (野球殿堂博物館 学芸員)】 〔スポーツの魅力を多くの人に!〕 幼少時からスポーツをするのも観戦するのも大好きで、学生時代には自ら相撲部を創部し、4年間相撲に取り組んだ経験を持つキュレーター。前職の秩父宮記念スポーツ博物館では、全国10カ所の巡回展を企画から担当し、スポーツ資料の展示にとどまらず、体験コーナーや芸術の視点からオリンピックポスターやスポーツ芸術作品を展示するなど、様々な工夫を施しました。「魅力を伝えること」の極意を聞きます。</p>		

	<p>第6回【5月28日 山本美希 芸術系】 〔マンガにおけるアクションとメイクドラマ〕 外国人が現代の日本文化に持っている興味の1つが「サブカルチャー」。それを代表する「マンガ」の一コマ一コマに隠された「動き」の表現の謎とテクニックを、手塚治虫賞を受賞した新進気鋭の漫画家が解き明かします。</p> <hr/> <p>第7回【6月4日 大原央聡 芸術系】 〔作品へのミッションとパッション〕 「スポーツをテーマとした彫刻作品は?」と問えば、多くの人が《ミュロンの円盤投げ》を思い浮かべます。西洋ではドガやイタリア未来派のボッチョーニ、日本では石井鶴三などが舞踊や相撲、動きのある作品を作ってきました。自らも木彫作品によって様々な「動き」を表現している彫刻家に、「動きの表現の世界」を紹介します。</p> <hr/> <p>第8回【6月11日 加藤 研 芸術系】 〔演出するスタジアムの流儀とは?〕 2020年のオリンピックに向けて完成間近の新国立競技場。皆さんは覚えていますか、あのデザイン決定に至るプロセスを? 「建造物」を考えることは同時に周りの環境や波及効果を考えることでもあります。芸術系新進気鋭のアーキテクチャーから、プランニングの舞台裏を聞き、スポーツとの関わり方を考えます。</p> <hr/> <p>第9回【6月18日 田島直樹 芸術系】 〔描く・彫る・刷る～版画家というトライアスリート〕 「わだばゴッホになる」という言葉を残した棟方志功は、1932年ロサンゼルス大会と1936年ベルリン大会の「芸術競技」に連続出品しました。当時と現代の版画表現や技法の変遷、テーマの多様化について「版画家の目」で解説します。</p> <hr/> <p>第10回【6月25日 嵯峨寿 体育系】 〔芸術からスポーツへ、は本当に成り立つのか?〕 本授業のトリをお願いしたのは体育系教員。これまで芸術からスポーツへのアプローチという形で進めてきましたが、最終回は一転、スポーツから芸術へ。ユースオリンピックにおける文化・教育プログラムや、なぜ競技者に勉強と芸術まで課すのか、などなどの問題提起があります。受講学生はこの剛速球を打ち返すことができるか!</p>
履修条件	学類・学群を問わず、「スポーツ芸術表現」に興味を持ち、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「創る」「観る」「支える」の感性とスキルアップをはかりたい学生。「リボン・アートボール」の作品制作を通じて、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」に参加したい学生。
成績評価方法	授業出席カード裏のコメント(70%)、レポート課題(30%)を総合的に判断して評価します。
授業外における学習方法	芸術作品の鑑賞とスポーツ観戦を勧めます。前者では「動き」の表現に、後者ではアスリートの動きはもちろんのこと、ユニフォームやボール、シューズ、チケット、ポスター、スタジアムなど、様々なところに用いられている「デザイン」に注目してください。
教材・参考文献	必要に応じてプリント配布および資料を紹介します。
オフィスアワー・連絡先	随時(メールで予約)
履修者へのメッセージ	皆さんが日頃、専門的に学んでいるものを「縦糸」だとすると、この授業は「横糸」になります。別の言い方をすれば、1つの専門を学ぶスタイルを「I型」とすると、他の領域も学ぶスタイルは「T型」ともいえるでしょう。さらに複数の専門、複数の他領域を習得できれば「井型」になります。芸術と体育領域を持つ総合大学である筑波大学ならではの授業を受講して、皆さんらしい「T-スタイルの布」を織ってみませんか。